

2011年8月28日

## 「素晴らしい主を信頼する信仰」ルカ 8：22～25

I 感謝。聖書には、旧約聖書の人々や主の弟子たちの失敗や弱さが正直に記してある。励まされます。神は、完璧なスーパーマンを選び、用いられるのではなく、欠けや弱さのある人々（私たちも）を選び、愛し、訓練し育てて下さるのです。この聖書を手にするのは、どれほど神に感謝すべきことでしょうか。人々のありのままの記録を読み、聖書の人物の姿を通して描き出されている自分を見ることができるとは、何と幸いなことでしょうか。

II 突風が吹きおろし気が動転している弟子たちへの主のおことば。「あなたがたの信仰はどこにあるのです」：25。主ご自身が、いっしょに舟に乗っておられるのに、弟子たちが動揺し、恐れ、狼狽しているのを見て言われた。主のおことばは、「わたしがいっしょにいるのにもかかわらず、あなたがたは、どうしてこれほどまでに動揺するのか。わたしを信頼していないのか」と諭されたのです。弟子たちも、私たちも、動揺や心配に支配されている時には、「全能の神が私たちに関心を持ち、見守ってくださる」という信仰、信頼が欠如しているのです。そこには、全責任は自分にあり（境界線の混乱→神の分、自分の分、人の分、協力し合う分）、一人でその困難を乗り越えなければならないという思い、力みが潜んでいます。「神は無関心だ。神は何もして下さらない」と感じているのです。信仰には、試練や苦しみ、神の愛ゆえの訓練があると聖書が真実に述べていることを忘れてはなりません。「あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです」（ヨハネ16：33）。勝利の主がいつも私たちと共におられるのです。試練や苦しみの中でこそ、主への信仰は生かされ、主に真剣に拠り頼み、私たちは、主の姿に成長して行くのです。いつも順調なら、私たちは、真剣に主に頼ることをしなくなります。ヘブル11章に登場する人たちは皆、試練を経験させられました。まず約束を与えられ、それを信じ受け入れました。その後、一切の状況が悪化して行くように思われました。ノアの試練、アブラハムの試練、ヤコブの試練。モーセは特に長い忍耐を強いられました。ペテロも同じことを述べています。「いましばらくの間は、やむをえず、さまざまな試練のために悩まされていますが、信仰の試練は、火を通して精錬されてもなお朽ちていく金よりも尊いのであって、イエス・キリストの現れのとくに称賛と栄光と栄誉に至るものである」（Iペテロ1：6, 7）。人生の嵐や試練、訓練は神の御支配の中にあります。すぐには私たちに、その意味が分からなくても。悲しく思われても。「すべての懲らしめ（神の訓練）は、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実（主の姿に成長する実）を結ばせます」（ヘブル12：11）。

III 孤立無援と感じ、すべてのことが思うにまかせず、神さえも自分のことを気に留めておられないように誤解する時があります。本当の信仰の試練がやって来るのは、その時です。突風が吹きおろし、水をかぶり、それも恐ろしい事でしたが、弟子たちの不安を最もかきたてたのは、主が無関心に見えたことでした。主は眠っておられ、自分たちを見放されたように思われました。そこで、「私たちはおぼれて死にそうです」と言ったのです。私たちの人生にも、神が自分を見放されたと感じる時があります。こんな時こそ、私たちの信仰が試されます。神はそのすべてを許容し、すべてを見ておられます。主は言

われました。「あなたがたの信仰はどこにあるのです」：25。1. 信仰とは、単なるいい気分ではなく、真理、御言葉、主の十字架と復活の御業を信頼しますという応答です。救われている気分がしない日も、主を信じているなら救われているのです。救いの事実は変わりません。2. 主への信頼という信仰は、自動的に働き出すものではありません。「この試練の中でこそ、最善をなして下さる主を信頼しよう。主は今、共にいて下さる」と自分の魂に語り掛け、主への信仰を働かせるのです。試練の中でも自分に語り掛ける最も良い御言葉→「わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くして下さったことを何一つ忘れるな」(詩103：2)。試練の中で、神は私を見放され、何も良い事はして下さらないと不信仰になる時、神の前に静まろう。静かに思い起こし、書き記そう→今日まで主が良くして下さった一つ一つを。「これからどうなるかは分からないが、しかし私は知っている。神は私を愛し続けておられる。ひとり子イエス様を遣わし、私の罪の為に十字架の死に渡された。私がまだ敵対者であり反抗的な罪人であった時にそうして下さった。私を今日まで導いて下さった神が、ここで私を見放されるとは信じられない。そんなことはありえない。神を愛する人々…のためには、神がすべてのことを働かせて益として下さる(ローマ8：28)。神は永遠の愛で愛して下さっている。出来事がすべて自分に理解できるわけではありません。しかし、神は決して無関心ではないと確信できます。神はあなたのすべてを見守っておられます。神がお許しにならないことは起こりません。すべては神の御支配の中にあり、神の摂理の中にあります。私たちがすべきことは、今自分の身に起こっていることの意味が分からなくても、「神は意味と御目的を持っておられる」と神を信頼し続けることです。

IV 最も弱い小さな信仰にも価値があります。弟子たちは、弱い信仰でも、主に叫びました。そして主は頼ってきた弟子たちを助けられました。私たちも、どんなに辛い時も決して見捨てられない主のもとに行きましょう。主は受け入れ、私たちを救い、支えて下さいます。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない」ヘブル13：5。「民よ。どんなときにも、神に信頼せよ。あなたがたの心を神の御前に注ぎ出せ」詩篇62：8